

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体				
がん検診受診率向上対策			中保健センター				
事業目的	事業内容	活動指標	R1	R2	R3		
<p>中区地域計画における「健(検)診受診率向上のための体制整備」をめざし、次のことに取り組む。</p> <p>○死亡原因の1位である「がん」についての正しい知識を啓発し、がんに対する理解を促すことで、がん検診受診率の向上へとつなげる。</p>	<p>日頃から実施している地域での健康教育に加え、若い世代も参加しやすいように、区主催イベントに併せた啓発イベントや休日検診などを実施する。また、管内のがん拠点病院やNPO（患者会と啓発事業を運営）との連携、健康づくり自主活動グループとの協働による健康情報の発信をする。</p>	啓発イベントや健康教育の実施回数	①NPOによる講演 2回 ②健康フェスタでの啓発 ③乳がん休日検診 1回 ④地域の健康教育 47回	①NPOによる講演 1回 ②健康フェスタ開催中止 ③乳がん休日検診 1回 ④地域の健康教育 25回	①NPOによる講演 1回 ②健康フェスタ開催中止 ③乳がん休日検診 1回 ④地域の健康教育 19回		
		啓発イベントや健康教育の参加人数	①71人 ②143人 ③46人 ④1037人	①37人 ②0人(開催中止のため) ③37人 ④850人(紙面啓発含まず)	①29人 ②0人(開催中止のため) ③29人 ④809人(紙面啓発含まず)		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
○	「がん」は日本人の死亡原因の第1位であり、管内のがん拠点病院やNPO（患者会と啓発事業を運営）との連携により、がん検診受診率を向上させることで、誰もが健やかで生き生きと暮らせるまちの実現に近づけられる。	○	NPOと連携しての講演会や健康教育実施については、企画段階から双方で内容を検討し、新型コロナウイルスの感染状況も踏まえ、3密を避けた環境のもと啓発活動を実施できた。	○	NPOと連携して事業に取り組み、日曜日に集団検診を実施することで平日では参加しにくい区民へ呼びかけることができた。	○	区内で、休日に乳がん検診を実施しているところではなく、事業の実施日を休日に設定することで、平日の事業に参加できない、がんの好発年齢である働き盛りの年齢層の参加が期待できる。
⑤自立発展性		総合評価					
○	区民に広くがんについての正しい知識を普及することで、検診受診も含めた主体的な健康管理につながる。また、市民自らが自分の周囲の人へ健康情報を伝えるという意識の醸成が期待できる。	○	NPOとの連携、就学時健診時の啓発により、より幅広い年齢層の参加が得られた。日曜乳がん検診は前年度と同等の予約人数であったが、当日キャンセルが多かったため前年度より人数が下回る結果となった。次回は多くの人のがん検診を受ける機会を逃さないよう工夫が必要と考えられる。ただ、保健センター事業や地区活動の中で啓発ができる機会を逃すことなく工夫しながらの啓発を行うことができた。 (例：企業との連携でがんの好発年齢である職員に対しがん検診受診の啓発)				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
<p>拡充</p> <p>継続</p> <p>見直し</p>	<p>区民各々が、自分自身の健康管理について関心を高められるよう、協力を得ることができる関係機関の開拓や、次回は多くの人のがん検診を受ける機会を逃さないよう工夫が必要と考えられる。来年度も引き続き保健センター事業や地区活動の中で機会を逃すことなく工夫しながらの啓発を行う。また、検診未受診者に対して個別のアプローチを行っていく。</p>						